

50代からの旅と暮らし発見マガジン

nodule 宝飾

大特集

夫婦で、親子で、友人と…

今年…

大切な人と 旅に出よう！

特集

御誕生1250年 空海と高野山

福岡・八女 麗しのクラフトとお茶の旅

4

2023 April Vol.198

山崎まゆみさん
おすすめ

バリアフリーの 温泉宿へ

かけがえのない父との旅を実現！ 「親孝行温泉」のすすめ



2015年3月、新潟市の奥座敷の岩室温泉にて。ご馳走の前に笑顔ほころぶ

体の不自由な方や高齢の方でも安心して宿泊できる温泉宿をご紹介します。温泉エッセイストの山崎まゆみさんに、ご両親との旅の経験から、旅のコツやおすすめの宿を伺いました。



文＝山崎まゆみ
跡見学園女子大学「観光温泉学」兼任講師。
VISITJAPAN 大使(観光庁任命)。著書に、
『行ってみようよ！親孝行温泉』、最新刊『温泉
ごはん 旅は美味しい！』は4月6日発売。

2019年5月――。
父は半年以上の入院で足腰が弱くなり、短距離なら杖を、長距離は車いすを利用するようになっていた。でも弱っていたのは、身体以上に気持ちだった。すっかり自信を無くした父を見て、私は医師から一時外出許可をもらい、父を温泉旅行に連れ出した。母と一緒に3人で、病院から車で40分程の温泉旅館の日帰りプランを利用した。その日の朝、病院に迎えに行くと、父は病院着から洋服に着替え、しっかりと顔つきをしていた。宿までの車中は窓を開けて風景を見ながら、「緑が濃くなっていたんだな」と吹き、爽やかな風に身を委ねていた。

日帰りプランは、11〜15時まで客室が使える、お昼ご飯もいただける。宿に着いて浴衣に着替えると、父は元気だった頃の顔に戻っていた。環境が変わると、人はこうも変化するのかと実感した。
お昼ご飯前に、入浴することにした。私が父の入浴介助をする予定で、バリアフリー対応の貸切風呂を予約していたのだが、
「おら、でっかい風呂に入る」
「お父さん、男性の大浴場には私は行けないから、ひとりじゃ危ないよ！お願いだから、私が見守れる貸切風呂にしてよ」
「おまえの世話にはならない」
こんな押し問答があつて、父は私を振り切り、大浴場へと向かった。杖をついて、よぼよぼと歩く父の後ろ姿を

見送るしかできなかった。
母と私は、男性の大浴場の暖簾の前で父を待った。しかし30分経っても出てこない。浴場で倒れてやしないかと心配になり、男性スタッフに父の様子を見に行ってもらおうと、
「お父様、ゆつくり入っていましたよ。もうすぐ出るから待ってろ」とのことでした」
40分後、大浴場から出てきた父は、「いい湯だったな」とにっこり。
「お父さん、杖は？」
「あ、忘れてきた」
脱衣所に杖を取りに戻る父――。かねてより宿の方から「ついでに杖を置いて帰るお客さんがいる」と聞いていたが、このことか。
部屋に戻り、昼食をとる。たくさんの方が少しずつ籠に盛り付けられた美しい料理だ。地味な病院食しか食べていなかった父は気持ちが高揚し、完食してくれた。
湯上がりの上気した顔で、
「でっかい風呂で、両手と両足を広げて、温泉に浮かんできた」
身ぶり手ぶりで気持ち良かった様子を嬉しそうに語る父を見て、むしろ私の方が大満足だ。この時に、「親孝行温泉」という言葉が浮かんできた。
その日を境に、父は食欲が出てきて、「次は旅館に泊まりたい」とリハビリに

励んでくれた。身をもって、温泉の効果を示してくれたのだ。

父は2021年3月に他界した。身体が不自由だった妹が10年ほど前に亡くなり、両親の時間がぼつかりと空いた。それ以来、父が病気になるまでは、両親と一緒に日本全国を旅した。父の遺影を母と選んだ際に、最終候補に残ったのは全て旅行の写真だ。悩みに悩んで、1泊2日を終えたチエックアウトの時の写真に決めた。

ご馳走を食べ、温泉に入浴し、もてなしを受け、すべてが完了した時に見せた、父の最も満たされた表情……。いままも実家の仏壇に手を合わせると、その時の父がいる。

温泉旅館は最愛の人の最も大切な表情を写真で残せる場所なのだ、父が教えてくれた。

案外、親との旅はできそうで、できない。かくいう私も、2019年春以降、父と温泉旅館に泊まったのは結局一度きりだった。父と母の体調を鑑みているうちに新型コロナウィルスが蔓延し、それどころではなくなりました。行けるなら、後回しにせずに直ぐに計画してほしい。老いた親との旅は、多少の強引さがなければ実現しない。

現在、超高齢化社会に対応するために、温泉地や旅館、ホテルのバリアフ

リー化が進んでいることを、存知だろうか。高齢の親を連れて行ける環境は整いつつある。それでは、どんな基準で宿を選んだらいいのだろうか。

高齢の親と温泉に行くなら

身体が弱ってきた親との温泉旅を実行する第一歩は、親の身体の状態を把握することから。ポイントは「日常の移動方法」だ。トイレ、お風呂、食事などをどうしているかを確認する。それらを把握した上で、宿選びだ。親の身体機能の衰えが顕著な場合は、受け入れ慣れている宿を選ぶことをおすすめする。旅とは、ピンチが起こるものなので、経験値の高い宿は相談に乗ってもらえるからだ。

また親の身体の状態を伝えると、予約の時にその人に適した部屋やお風呂を案内してくれる。宿によっては必要になるかもしれない備品を予測し、用意してくれたりする。
宿がどれくらい慣れているかどうかは、予約の時のやり取りで明確になる。

予約の際の確認事項

バリアフリールームを備えた宿でも、駐車場から玄関、ロビーから客室まで、



2013年11月に雄大な阿蘇を眺めてドライブ。このあと黒川温泉に向かった

といった滞在中の館内の動線を探ること。段差がある場合はスロープ設置の有無などの確認も必須となる。
また、部屋の広さとドア幅を聞くことで、車いすで客室内を移動できるかが判断できる。床はフローリングか畳か。ドア幅は80cm以上あればベターだが、電動車いすなどの大きなサイズなら90cmあるとベストだ。
食事をする場所は客室カレストランか。個室を利用できるか。そこにはテーブルといすがあるか。テーブルは、車いすのまま使用できる高さなのか。
出される食事のアレンジ(きざみ食やペースト食、アレルギー対応など)は可能か。場合によっては食事を持参したい。畳を傷つけない車いすの車輪カバーや、入浴時があると安心な滑り止めマットやステップ台、着脱式手すりなど、借りられる備品も尋ねたい。

こうした予約の際のひと手間を快く対応してくれる宿は経験値が高い。事前の確認作業がどれほど重要かを客以上に心得ているからだ。
プロに頼むのもひとつの方法だ。介護旅行の専門会社あ・える倶楽部(※注1)では、各地で活動するトラベルヘルパーを手配してくれる。
特に温泉宿の慣れないお風呂で入浴介助することは危険も伴い、家族だけでやろうとすると、介助する側もされる側も疲れてしまう。ここはプロに頼み、家族の時間をゆつたりと過ごすことに注力してほしい。
また、いまはリフト付きの浴場も全国にできつつあるため、そうした情報は日本バリアフリー観光推進機構(※注2)に頼るのも手だ。旅館のバリアフリー情報や近隣の立ち寄りやすい食事処、観光スポットも紹介してくれる。
P48〜51では、私が全国を取材した中でも利用しやすいであろう宿を6軒推薦しました。ぜひご参考にしていただきたい。

旅の心得と事前のチェックポイント

- 親の身体の状態を把握
- 宿の予約時に受け入れ状況を確認
- プロに頼むことも検討してみる
- 行ける時に、多少強引でも行く！

※注1 あ・える倶楽部 ☎03-6415-6480 https://www.aelclub.com
※注2 日本バリアフリー観光推進機構 ☎080-6955-7883 http://www.barifuri.jp